

三原市久井歴史民俗資料館 vol.16

モーモー通信



モノをはかる道具

かつて量、長さ、重さの「はかる単位」は地域ごとにバラバラでした。日本ではじめて統一的なはかる単位が定められたのは、大宝元（701）年の「大宝律令」です。

日本古来の単位は、「尺貫法」といい、今、私たちが使っている単位は、明治時代に取り入れられた「メートル法」です。今回は、昔のはかる道具についてご紹介します。

量（かさ）



モーモー博士
に質問！お米の「1合」って
どのくらい？



1合（約180ml）は、1
人が1回に食べる、お
米のおおよその量で
す。合というのは、昔の
はかる単位のなごりな
のですよ！

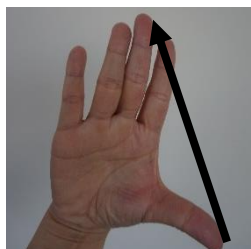
【枡】

米などの穀物、酒、塩や砂糖など、さまざまなものの量をはかる道具です。古くは地域ごとにさまざまな枡が使われ、混乱をまねきました。

そのため戦国武将の豊臣秀吉が、京都で使われていた一升枡を、全国基準の枡に決めました。一升の10分の1が1合となり、現在の米の計量カップの1カップ=1合の分量もそれに由来します。



長さ



昔の長さの単位に「尺」があります。約3000年前の中国で定められ、1尺は親指と中指のはば約18cmでしたが、時代は流れ長くなりました。長くすれば、政府が税などを多くとれたからといわれています。



【曲尺】

おもに大工が使う直角に折れたものさしです。そこに刻まれた目盛りの1尺の長さは30.3cmです。



【重さ】

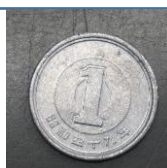
昔の重さは、「匁」が基本でした。ルーツは中国のお金の重さ(1匁=3.75g)で、それが江戸時代の日常的に使われたお金「寛永通宝」の重さに受けつがれたのですよ！



寛永通宝
重さ 3.75 g



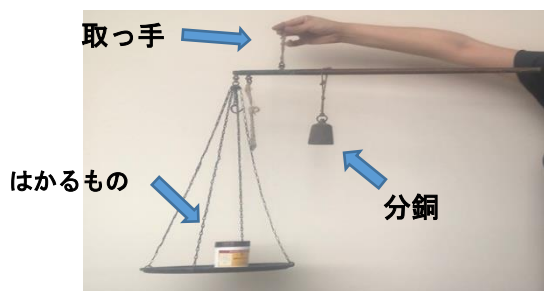
五円玉
重さ 3.75 g



一円玉
重さ 1 g

【さおばかり】

「てこの原理」で、ものの重さをはかる道具です。野菜、魚、米などさまざまなものをはかりました。使い方は、さおについた取っ手を持ち、皿にはかるものをのせます。そしてさおのおもり(分銅)を左右に動かして、さおが水平になった位置の目盛りを読みます。



はかる単位がうつりかわる間、新旧両方の単位をつかっていたよ！計算が得意になったかモ～



★「モーモー通信」はHPでも★

調べよう！みはらコレナンド？(子ども向け) <https://www.city.mihara.hiroshima.jp/soshiki/50/104083.html>



つづきは資料館で...

〒722-1303
三原市久井町下津 1397
三原市久井歴史民俗資料館
TEL・FAX 0847-32-7139

休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合、翌日休館)、年末年始
アクセス 中国バス久井中停留所下車

いあんない図

